

## 【幼・小連携の進め方】

### 1 幼・小連携の意義

幼児が幼稚園生活の中で育てられた心情、意欲、生活行動などを、小学校生活においても十分発揮させ、楽しく充実した学校生活が送れるように指導することが大事である。また、小学校では幼稚園の教育内容を有効に生かした指導の工夫が必要である。

そのためにも、幼稚園と小学校それぞれの独自性と連続性について、教師同士が相互に理解し合う場や機会を意図的に設けることが大事である。

#### ◇ 幼稚園教育要領(平成20年3月)

##### 第1章 総則

##### 第2 教育課程の編成

幼稚園は、家庭との連携を図りながら、この章の第1に示す幼稚園教育の基本に基づいて展開される幼稚園生活を通して、生きる力の基礎を育成するよう学校教育法第23条に規定する幼稚園教育の目標の達成に努めなければならない。幼稚園は、このことにより、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとする。

##### 第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項

##### 第1 指導計画の作成に当たっての留意事項

##### 1 一般的な留意事項

(9) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。

##### 2 特に留意する事項

(5) 幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を図るようにすること。

#### ◇ 幼稚園教育要領解説(平成20年6月)

##### 第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項

##### 第3節 特に留意する事項

##### 5 小学校との連携

幼稚園では計画的に環境を構成し、遊びを中心とした生活を通して体験を重ね一人一人に応じた総合的な指導を行っている。一方、小学校では、時間割に基づき、各教科の内容を教科書などの教材を用いて学習している。このように、幼稚園と小学校では、子どもの生活や教育方法が異なる。このような生活の変化に子どもが対応できるようになっていくことも学びの一つとしてとらえ、教師は適切な指導を行うことが必要である。しかし、生活の変化が大きすぎると、子どもはその生活の変化にうまく適応できないこともある。子どもは小学校入学と同時に突然違った存在になるのではなく、子どもの発達と学びは連続していることから幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のため、連携を図るようにすることが大切である。

具体的な活動に当たっては、例えば、幼児と児童の交流、小学校の教師との意見交換や合同の研究などがあげられる。

◇ 「鹿児島県幼児教育振興指針」鹿児島県教育委員会（平成16年4月）

I 幼稚園教育の振興

5 幼稚園と小学校の連携の推進

幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることから、小学校教育への円滑な移行や接続を図るために、連携を推進する。

(1) 教員間、幼児・児童間、保護者間の交流の推進

幼稚園と小学校の連携や交流の機会を充実し、両者の共通理解を進めるために幼稚園と小学校における総合的な連携方策の開発や推進を図ること。

(2) 幼稚園及び小学校の教員免許の併有の促進

教育職員免許法施行規則の一部改正（平成13年3月27日文部科学省令第22号）により、幼稚園と小学校の間の教員免許の取得に係る履修科目の取扱いの一層の弾力化が図られたことを踏まえ、教員免許の併有について促進すること。

(3) 振興の方策（略）

6 幼稚園と保育所の連携の推進

幼稚園と保育所は、それぞれの制度の中で整備充実に努めてきているが、以下について連携を推進していく。

(1) 幼稚園関係者と保育所関係者による研修の相互参観等、教員と保育士間や幼稚園児と保育所入所時間の交流の促進に努めること。

(2) 幼稚園と保育所の共用施設に係る運営等の実践研究の推進を図ること。

(3) 振興の方策（略）

## 2 幼稚園（保育所）・小学校の連携・接続の視点

(1) 小学校に入学した子どもの実態に即した学級づくり

- ・ 就学前教育との連携・協力を強化し、必要な情報交換（その子のよさ、発達の様子や課題など）をする。
- ・ 教育内容のつながりにおいて、教育目標・めざす子ども像の連続性と共通性を図る。

(2) 幼稚園と小学校の連携や交流の機会の充実

- ・ 幼稚園と小学校のすべての教師による互いの教育の在り方を理解する連携・交流を図る。
- ・ 幼児と児童がともに学び合える互惠性のある交流が大切である。  
合同の研究会や研修会，相互参観，合同行事等  
教員間，幼児・児童間，保護者間の交流

(3) 幼稚園での幼児期にふさわしい遊びから低学年の生活科の学習へ

- ・ 幼稚園から小学校への総合的な指導の流れで、幼稚園から小学校への円滑な移行を進める。
- ・ 幼児期の学びの過程は、小学校の生活科や総合的な学習の時間の学習過程に通じるものがある。  
異年齢・異世代交流の推進

(4) 家庭・地域社会の理解・協力

- ・ 遊び・学びの出会いにおいて、身近な地域社会の自然・もの・人との出会いが重要で、身近な地域社会との出会いは、子どもたちの学習や生活を豊かにする。

幼稚園と小学校のそれぞれの教員が子どもに対する共通の認識をもち、互いの教育に対して理解を深めることが重要である。

### 3 幼・小の交流・連携のポイント

#### (1) 総合的に展開される学習活動

##### ア 幼稚園

- ・ 心身の健康に関する領域「健康」
- ・ 人とのかかわりに関する領域「人間関係」
- ・ 身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」
- ・ 言葉の獲得に関する領域「言葉」
- ・ 感性と表現に関する領域「表現」

5領域におけるねらい及び内容が、遊びを通して総合的に展開される。

##### イ 小学校生活科

身近な社会や自然を一体的に扱い、具体的な活動や体験を通して、学習活動が展開される。

#### (2) 遊びの重視

子どもは遊びを通して、自分の思いや願いを実現し、満足感を得たり自分らしさを表出したりする。

##### ア 幼稚園における遊び

園生活全体を通して、幼児の興味や関心に即して展開される。

##### イ 生活科の目標と内容にそって具体的な活動が構成され、指導計画に位置付けられる。遊びも学習である。

##### ウ 幼・小の関連性を考慮した遊び

- ・ 自分の意志で活動し、主体性をもってできる遊び
- ・ 子どもの発想や思いの連続性のある遊び
- ・ 身体表現や言語活動など具体的な活動を通して、感性や表現力が豊かになる遊び

#### (3) 子どもが主体的にかかわる学習活動

#### (4) 子どもの個性に応じた指導の重視

感じ方、見方、生活環境、生活体験の差異を考慮

#### (5) 活動時間の弾力的運用

### 4 教育内容・教育方法での連携

#### 活動例

##### (1) 遊びへの招待～一緒に遊ぼう・歌おう

- ・ おもちゃ広場
- ・ コンサート
- ・ 遊びランド

##### (2) 探検しよう

- ・ 幼稚園へ行こう
- ・ 小学校へ行こう
- ・ ○○森を探検しよう

##### (3) おまつり・パーティをしよう

- ・ おみこしわっしょい
- ・ おいもパーティ
- ・ 野菜パーティ

##### (4) 発表会をしよう～音楽会・展覧会

##### (5) おいでよ小学校へ

- ・ 運動会
- ・ 体験入学
- ・ もうすぐ1年生

